年次研修者振返り

３年次　数学科　武井 文音

１年次、２年次を通して、基本的な知識・技能の定着と応用力の育成の両立に課題があった。本校生徒の多くが数学に対して苦手意識を持っていて、定期考査に対応できるように基本事項を身に付けることが最優先となる生徒が多い。しかし、積極的に取り組むことができない理由は生徒によって異なっており、学習に取り組む意味を感じることができていない生徒や、積極的に取り組んでもなかなか成果が出ずに諦めてしまっている生徒が同じ学級に混在していた。その一方で、数学が好きでより難しい問題にも挑戦したいと考えている生徒もおり、すべての生徒が積極的に取り組むことができる教材研究が難航していた。

今年度の目標として、無理に基本的な知識・技能の定着と応用力の育成を両立するのではなく、生徒一人ひとりの現状と個性の把握を図り、それを生かすことのできる授業づくりを考察した。数学への苦手意識が強い生徒に対しては、まずは数学の有用性を伝えることと、基本的な問題であっても解けたという成功体験の積み重ねを重視した。実生活で使われている数学の紹介を取り入れるとともに、机間指導をさらに丁寧に行い、躓きに合った指導や前向きな声掛けを粘り強く続けた。その結果、やればできるという意識付けができ、わからない問題であっても教科書やノートを見直しながら取り組む生徒が増えたように感じている。数学が好きな生徒に対しては、公式の証明方法や発展的な問題も授業内で扱うとともに、演習時間には躓いている生徒に教える役割を与えることで学び合いを実践することができた。基本的な問題ばかりで飽きてしまうこともなくなり、他者から認められることでさらに学習意欲が向上した様子が見られた。どのような生徒に関しても、学習意欲が向上すれば基本的な知識・技能の定着が見られ、それを基に応用力の育成を図ることにつなげていくことができた。

３年間の研修を通して、学習指導力向上に重点を置いて取り組んできたが、一番重要なのは生徒の現状や個性の把握と信頼関係の構築であるということを学んだ。どんなに素晴らしい教材や授業内容を考えても、目の前の生徒の現状にマッチしていないとその効果を発揮することはできない。生徒は信頼している教員に励まされ認められるから学習意欲が向上する。今後も研究部での活動を通して学習指導力向上に努め、一人でも多くの生徒に数学を好きになってもらえるような授業を目指していきたい。